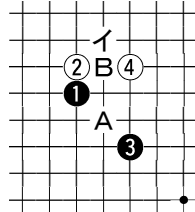


遊星ガイド (6)

九段 河村典彦

今回は新しい白4の防ぎについてやっつけていこう。

【第48図】この白4は2と離れており、結構黒が打てる感じはする。

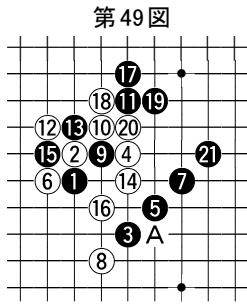


白2、4が一路左なら流星の難型になるが、一路の違いはやはり大違いである。黒A、Bは調べなくても黒必勝と思われるの、他の候補を順次調べていこう。

黒はやはりAと引ける余地が残っていることが大きく、結構打てる手はあるが、白6でイと打たれる手だけは避けなければなら

ない。

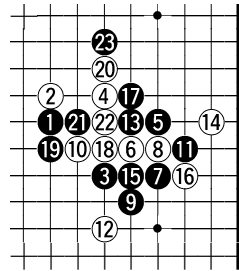
【第49図】まずはこの5が打てそう。白6と外からけん制してき



たら、黒7と引き黒9と入っておく。対して白10から12が怖い手だが、黒13と切り札を惜しげもなく使って上辺に黒17と展開する。狙いは言うまでもなく黒21の四三である。うまい具合に筋が抜けている。さりとて、白6を16なら、黒7でAと固まっておいて良いだろう。

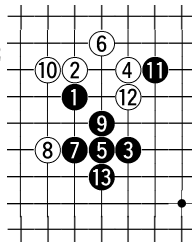
【第50図】前図の黒5が成立するのなら、この5も考えてみたい手である。前図の黒5の展開を避けるには白6しかないの、その手に

第50図



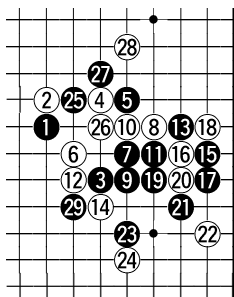
【第51図】黒5も黒勝ちになりそうなの場所にある。白6と打たれるのが怖い、それには黒7から引き出していける。黒9と引き、白10で黒困ったかに見えるが、黒11と外から先手で止めることができる。白12で外止めなら黒は四追いがあるから大丈夫。黒13と引いて、上止めなら四追いなので黒勝ちとなる。

第51図



【第52図】次に良さそうなのがこの黒5だろうか。対して白6はこ

第52図



こに一発打っておかないと持たないだろう。黒もここに一着入れられると簡単ではない。黒7はいかにも絶好点だが、白8と素直に止められると苦労する。

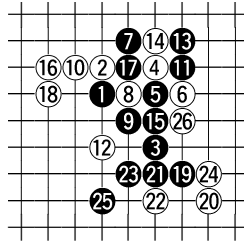
黒9から11はちょっとひねった打ち方で、白に13に引かせて黒26に止めようという狙いである。

ついて考えればよい。

当然黒7と打つが、白8と冷静に止められて盤端が近くなかなか勝つのは難しい。なお、白8を15なら黒9から勝てそう。この白8に黒9と打つのは打ちすぎの気もするが、ここは双方の急所であり打っておきたい。以下手順に黒11と引けてしばらくは攻勢を取ることが出来る。黒23まで打っておけば互角に戦えるだろう。

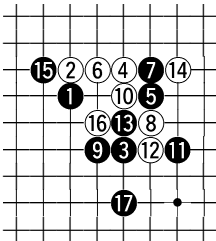
そこで白は12と打って黒を盤端に追い込もうとする。とは言え黒も13から右辺で攻め、とりあえず形を決めていく。そして剣先を中央に持ってきて黒25、27を利かし、黒29までの展開でどうだろうか。黒に苦勞が多いものの、白も黒に抜けれないように防ぐ必要がある。

第53図



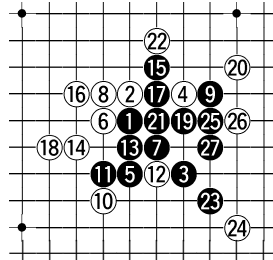
に打てないのが辛い。黒9から攻めていって同時に防ぐしかない。だが、白26までの展開は黒がかなり辛い。

第54図



で組み立てる。

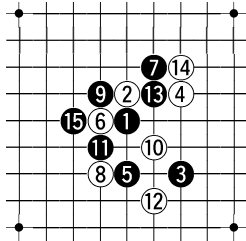
第55図



【第55図】黒5は九か所目の着手になる。実戦では必ずしも八か所指定しなくてもいいので、相手の顔を見ながら打つことになるだろう。

黒5は瑞星と思えば違和感もない。ただ、当然白6と外からかぶせる手には要注意だ。黒7と引いてみるのは面白い手で、白8に黒9と外から止め、手拍子で白が中止めしたらすかさず黒27に打って勝てるのだが、白10と外から止められると、この手を含みでやっかいだ。黒11、13と打つしかなさそうだが、白14と引き、白18までなら以下四追いと思つて喜んで打つと、最後の黒27が何と四三々になっている。これでは黒負けだ。

第56図



【第56図】そこで黒7ではおとなしく叩いておいた方が良さそうだが、白8と止めに来れば、黒9の切り札を使わざるを得ない。さらに黒11と攻撃的に打つてみるのも面白い。

白12とおとなしく止める手が案外強く、対して黒は三々を止めているようでは大勢に遅れてしまう。ここは黒13と一本引き、黒15と超攻撃的に攻めてみたい。このようなスリリングな攻防が連珠の醍醐味でもある。ただし、これには研究と読みの裏付けが必要である。黒5は他にも第55図の12や、21(名月に戻る)も打てそうなので、合計10か所以上打てることになる。